＝　普　及　情　報　＝

Ｎｏ．３３

平成３０年２月２６日

東部農林振興センター 雲南事務所 農業普及部

標題	仁多米の産地として今後の取組みを考える（第９回仁多米振興大会開催）

（ダイジェスト）

2月11日（日）、仁多米振興協議会（町、JA、奥出雲仁多米株式会社、普及部）は、平成30年からの米政策の転換期を迎える中、産地一体となって、仁多米の更なる「品質向上」と「ブランド化」を図ることを目的に第9回仁多米振興大会を開催しました。

生産者193名、流通・関係機関68名が一堂に会し、講演会や大会宣言等を通じて、これからの米づくりをともに考えるとともに、仁多米の産地として一層の飛躍を誓いました。

本大会は、仁多米振興協議会（町、JA、奥出雲仁多米株式会社、普及部）が「更なる品質向上」と「ブランド化」を産地一体となって図ることを目的に隔年開催しています。

平成 30 年からは、生産調整の見直しや米直接支払交付金の廃止など米政策の大きな変化を迎えることから、「仁多米の産地として今後の取組みを考える」を大会テーマに開催しました。

はじめに、技術情報として、当普及部より、品質向上を目指した実証試験の取組結果を報告しました。当普及部では、平成 28 年度～平成 29 年度に管内 4 か所において、①土壌改良資材による品質向上実証、②施肥の適正化実証など更なる品質向上に向けた普及活動を行ってきました。本大会では、これらの結果報告するとともに、循環型農業、減農薬・減化学肥料、土づくりの３つの取組みの実践に向けて一層の推進を図りました。

また、講演会では、山形県の遠藤五一氏を講師に特別栽培米の取組みや品質向上対策などについて講演がありました。いずれも本大会のテーマである「これからの産地の取り組み」について考える機会となりました。

当普及部では、今後も実証試験や研修会などを通じて、更なる品質向上を図るとともに、特別栽培米の取組み拡大に向けた支援を行っていきます。

大会の様子

実証試験の結果報告

第 9 回仁多米振興大会　大会宣言

○豊かな自然、歴史ある風土と文化を大切にし、「地域資源を活用した米づくり」を目指します。
○堆肥、ケイ酸、鉄資材の施用など、「土づくり」を基本に米の品質向上を目指します。
○消費者から信頼される「仁多米」を確立するため、特別栽培による米づくりを目指します。

担当者	仁多地域振興課	柿本　光宏	Tel：0854-42-9544